

第8回中部歴史まちづくりサミット パネルディスカッション要旨

➤ コーディネーター

後藤 修 氏（工学院大学 理事長・郡上市歴史的風致維持向上計画協議会 会長）

➤ パネリスト

高山市副市長	清水 雅博 氏	亀山市長	櫻井 義之 氏	犬山市長	山田 拓郎 氏
恵那市長	小坂 喬峰 氏	美濃市副市長	堀部 勉 氏	明和町長	世古口 哲哉 氏
岐阜市副市長	谷山 拓也 氏	郡上市長	日置 敏明 氏	名古屋市副市長	松雄 俊憲 氏
伊賀市長	岡本 栄 氏	岡崎市長	中根 康浩 氏	三島市長	豊岡 武士 氏
掛川市長	久保田 崇 氏	伊豆の国市長	山下 正行 氏	下田市長	松木 正一郎 氏
津島市長	日比 一昭 氏	浜松市副市長	長田 繁喜 氏		

➤ 主な意見

テーマ①

新型コロナ禍における人々の生活様式・意識の変化に合わせた
歴史的風致を活かす観光まちづくりの取組

高山市

高山市におけるまちなみ保存は住民主体で進められ、市はそれをバックアップすることで継承され続けてきた。

コロナ禍においては、高山市の伝統行事である春・秋の高山まつりが中止となり地域住民の間で行事の継承がされない危機に。そのため、地域内での伝承を目的にまつりを再興。

こうした伝統行事・伝統芸能の担い手不足は喫緊の課題。その解決策として、地域外部の方に伝承の担い手となってもらうことを考え、市民へのアンケート調査のなかで同様の設問を設けたが、地域外からの支援を希望する声は少なく、中には「地域外の方には祭屋台に載ってもらいたくない」といった声もあった。しかし、人手不足は目前の課題であり市民の声をふまえた対策を講じる必要がある。そこで、移住者数が4年連続県内1位であることに着目し移住者ネットワークを組織。祭礼準備の見学など通じ、地域の文化を理解してもらうこと・地域住民には外部の方々へ門戸を広げてもらう狙い。

美濃市

コロナ禍においても地域の歴史・伝統文化を継承させるため、以下の取り組みを実施。

- うだつの町並みでのイベント再開

例)美濃まつり 花みこし・美濃流しにわか・山車山。

- 美濃和紙あかりアート展の再開
- 無形文化遺産「美濃和紙」の伝承

課外授業に代え、地元の小学校にて紙漉き職人による授業を実施。

美濃和紙の用途の大半はお土産品であるが、コロナ禍における観光客数減により大打撃を受けた。そんな中、東京オリンピックの表彰状に美濃和紙が使用されることに。大会運営側からは無償での提供依頼があったが、コロナ禍の経済状況において職人の生活を支えるために、市が商品を買取り大会運営に提供した。

そのほか、空き家となった町屋のリノベーションを実施。紙漉き体験のほか、農業体験と絡めた滞在型観光の取組を推進している。

明和町

地域の文化の継承に向け、以下の取組を実施。

- 伝統行事・工芸に関する記録用・普及用動画の作成
動画共有サイトでの配信のほか、学校・関係者・図書館などに配布・販売。
- 伝統行事の用具修繕に対する支援
- 歴史・郷土に関する出前授業

コロナ禍により「県内文化の再認識」「マイクロツーリズム」の考え方が浸透しているなか、修学旅行の訪問先としての需要が増加している。その要因として考えられるのが、県内の学校へ明和町の案内チラシを配布したことである。修学旅行において「体験」を重視する学校から、町内の県立博物館・歴史体験館などの体験施設が好評を博し、旅行先として選んでいただけた。

郡上市

コロナ禍にあった昨年度までは、郡上おどりはオンラインにて実施・継承してきた。今年度は対面にて開催。踊り手のソーシャルディスタンス確保のため、従来よりも会場面積を広く確保、実施日数も半減して実施。今年度の取組を通じて、伝統文化も環境の変化に合わせてアップデートできるものである、との教訓を得た。

今後、インバウンドの復活に向けて、外国からの訪問客の興味・関心をリサーチ、それに対応するまちづくりが重要と考えている。欧米豪からの個人旅行者(FIT)への対応のため、案内板の多言語表示化、英語ガイド育成に取り組む予定。

また、まちのシンボルである郡上八幡城は耐震化整備を実施、R5年度には再建 90 周年を迎える。今後、館内の展示のリニューアルも視野に入れており、外国の方にも興味・関心に沿った展示としたい。

三島市

今年の夏、三嶋大社例大祭を 3 年ぶりに開催。大河ドラマに出演中の俳優の行列参加もあり大勢の集客が見込まれたことから、当日は以下のような徹底した感染対策を講じた。

- 歩行者天国・境内参道の通行規制・飲食禁止
- 出店数を減らしソーシャルディスタンスを確保
- 主要イベントのオンライン配信

これらの対策の結果、当日の混乱や開催後の感染爆発を回避し安全なイベントとすることができ、ウイズコロナ時代におけるイベント開催のノウハウ獲得につながった。

また、「まちのファン」獲得に向け、山中城跡の PR と維持管理費確保を目的としたガバメントクラウドファンディングを実施。リターンとして、限定御朱印や寄付者の名前入りのぼり旗をたてる限定イベントを用意した。ターゲットを明確化することで、ファンと寄付を獲得、山中城跡を再訪してもらう好循環が形成された。「いまだけ・ここだけ・あなただけ」の特別な体験が、ファンの獲得につながっている。

下田市

今後のウィズコロナ・ウィズウイルスの時代においてはウォーカブルなまちづくり・公共空間整備が重要と考えており、以下の取組を実施。

- 屋外でのイベント・社会実験の実施
- 空地のポケットパーク化
- 修景舗装により公共空間の高質化

社会実験実施後の意見交換会では、「住民にとっての日常の場と、観光客にとっての非日常の場が同一空間に形成され、その価値を両者で共有・楽しむことが重要」との意識が形成された。

昨年市制施行 50 周年を迎えた際に、「グローバルシティ」との目標を掲げた。今後、米・露の来航などの歴史をはじめとしたグローバルな側面を活かしつつ、歴史をふまえたローカルで高質なまちづくりを進めていきたい。

津島市

コロナ禍における観光ニーズ・旅行スタイルに合わせ「少人数でのまちあるき」を推奨する以下の取組を実施。

- 「つしまちあるきキャンペーン」
名古屋鉄道とタイアップした企画きっぷを販売。市内で使用可能なクーポン・津島神社の限定御朱印などがセットの内容。今年度はキャンペーン限定のスイーツも販売。
- 「津島てら・まち御縁結び」
東海三県の全市町村のなかで「寺密度 No.1」であることを活用し、市内のお寺が一斉に御朱印授与を行うイベントを定期的開催。
- 津島御朱印めぐり
貸切りタクシーで津島神社・市内の寺院をガイドボランティアと巡る、観光タクシーツアー実証実験を実施。

こうした取り組みを企画しながら、市内各地に点在する観光資源を少人数でゆったりとめぐる良さを感じていただけるよう、民間と連携し PR していくことも重要。

テーマ②

“まちのブランド化”に向けた 歴史的風致をブランド化するためのシティプロモーション戦略

亀山市

シティプロモーション戦略において、まちの暮らしやすさ・魅力を表す5つのイメージコンセプトのひとつに『心の豊かさをもたらす「歴史文化」』を位置付けるなど、歴史的風致は市の戦略としても重要視している。

昨年度に認定を受けた第2期計画では、重点区域として「加太駅周辺地区」を新たに指定。同地区は旧東海道の旧東海道に接続する大和街道沿いにあり、古くから交通の要所とされてきた場所であり、ここに残る鉄道遺産：JR 関西本線 加太 駅舎を修理・整備を実施。そのきっかけは、過疎化・利用者減少の影響を受け、駅舎解体計画が急遽浮上したことにある。市は遺産を守るため、JR と交渉・協議を重ね、その結果、無償で駅舎を譲り受けた。

その後、住民と一体となり、地域拠点となる駅舎を整備。完成した「かぶとサロン」は地元住民により運営されており、来訪する旅人と住民の交流の拠点として利用されている。重要な資源を守り抜くため、地域総ぐるみで取り組んでいる。

市内の旧東海道：関宿・亀山宿・加太宿の街道文化に加えて、鉄道施設・遺産を含めたつながりを意識したまちづくりによるシナジー効果を獲得しながら、ブランドの醸成に向けて取り組んでいる。

犬山市

➤ 犬山城・城下町の価値をみかく

城下町の無電柱化、景観阻害物件の撤去、犬山城の櫓・門の復元を計画。

➤ 名勝・木曾川を活かす

- 10日間にわたるロングラン花火を実施

コロナ禍における分散型観光の側面からも効果を発揮。

- 宵のいぬやマルシェの開催

昼から夜まで楽しめる空間形成を意識。

- 木曾川鵜飼 船頭の育成

遊覧事業の強化が目的。

- 河畔歩道の美装化に向け、住民を交えたワークショップの開催

犬山遊園駅—木曾川河畔—犬山城へのアクセスルートの魅力向上が目的。

犬山城が望むことができる歩道美装化により、シビックプライドの醸成と「住みたくなる」ことにつながる狙い。歩道整備の一環として、夜の時間帯の演出も検討。滞在時間をのばすことも意識。

➤ 文化財の活用

- 市内の文化財をつなぐ手段として、「自転車さんぽ」イベントを実施

- 東之宮古墳の整備

欠損部分を住民の手で修復し、古墳づくりを体験するイベントを実施

恵那市

市民が誇りを持てるまちづくりに向けて、以下の2地区において重点的に取組を実施。

➤ 宿場町大井地区

中山道明治天皇大井行在所の改修事業を実施。天皇が宿泊した御座所を市が譲り受け再整備、交流スペースを設置して再オープン。施設の一部は文化財として指定されているが、市民がさまざまな活動を行えるように開放している。オープン当時はコロナ禍の真ただ中にあったが、旅行雑誌やSNSで多く掲載され、反響を得ている。

➤ 城下町岩村地区

重要伝統的建造物保存地区を中心として、江戸期から大正までの家屋が並ぶ地区。補助金を活用し個人の家屋・まちなみを復原するほか、個人所有の住宅等をまちなみに調和したものへ改修する場合、その費用を支援している。また、ロケーションの良さから、イベントやドラマや映画のロケ地として積極的に活用されている。

また、当該地区では住民による清掃活動が昭和30年代から続けられていたとの記録があり、当時からまちなみは自分たちの宝として、磨いていく思いがあったものと推察される。清掃活動には地元の中学生を始め、若い世代も参加しており、生まれ育ったルーツを知るきっかけとなるほか、日常では気が付かなかった、歴史・まちの魅力の再発見につながっている。

イベント等で岩村地区を訪れた観光客がまちなみの美しさを評価、その評価により市民の活動のモチベーションが向上。この繰り返しによりシビックプライドの醸成・活性化へつながっていくものと考えている。

岐阜市

史跡岐阜城跡では、発掘調査により金箔の瓦や庭園が見つかったほか、武将が見下ろした濃尾平野の景色とふもとから見上げる城郭景観を維持するため、石垣等の遺構を隠す樹木を伐採している。そのほか、山裾ではP-PFIの手法を用いて庭園の復元を実施している。

ぎふ長良川鶺鴒も重要な風致であり、高級鶺鴒観覧船、水上座敷などを整備するなど観覧方法も多様化させている。

行政をはじめとし、市民・企業・団体など、さまざまなステークホルダーと意識を共有しながらプロモーションを進めることが重要。その取組として、「岐阜市センターゾーンの未来風景」として各ゾーンの特徴を生かした未来ビジョンを策定。市の部局・各団体の垣根を超えてビジョンを共有・PRに努めている。

名古屋市

徳川家康が清須から名古屋へ遷都し、名古屋城・本丸御殿が建設されたことが名古屋のまちづくりのはじまり。空襲により名古屋城一帯は全焼したが、豊富な資料が残っていたため、復元することができた。

名古屋における歴史観光の目玉、熱田台地の北側：名古屋城と、南側：熱田神宮をいかにしてつなぐかが課題とされており、これらをつなぐ「堀川」に着目し、整備を実施。遊覧船にて両拠点をつなぐ計画で

ある。また、歴史的なまちなみを有する有松では空き家が増加しており、民間活力を活用しながらリノベーションを実施、空き家解消に向けて取り組んでいる。

名古屋だけではなく、犬山市・下呂市など、「旧尾張藩」の市町と連携しながら、一体となって事業を進めていく考え。その取り組みとして、令和2年度より共同のプロモーションビデオを作成しており、欧米豪からの観光客をターゲットとしたPRを推進している。

伊賀市

市の中央には上野城が位置し、城の南側に広がる城下町には江戸時代の歴史的建造物などの町並みをベースに、近代建築、江戸時代の藩校、明治の小学校・中学校、大正のモダニズム建築などのそれぞれの時代の魅力的な建造物が残っており、重層的な文化のまちなみが形成されている。

現在、PFIの手法を活用し近代建築を図書館・観光センター・図書館に泊まれるホテルへリノベーションしているほか、「伊賀流忍術の里」をPRする忍者体験施設を整備している。

伊賀に残るさまざまな時代の歴史建造物・文化をみがきながら、まちの魅力のさらなる向上に取り組む。

岡崎市

徳川家の先祖である松平氏や家康公が創建に関わった寺社・伝統行事が数多く継承されている。これらによって構成される「徳川家康公生誕の地 岡崎」のブランド化に向け、各種の取組を実施。

- 岡崎城跡の発掘調査、全長400メートルに及ぶ石垣の整備により新たな魅力の掘り起こし
- 岡崎城の総構えが含まれたエリア内にて、公民連携まちづくり「QURUWA 戦略」を推進
- 歴史的風致啓発のための動画を作成、Youtubeにて配信

第1弾は「家康公生誕の地 岡崎」がテーマ。岡崎城・伊賀八幡宮・大樹寺や、これらを舞台におこなわれる伝統行事を紹介。

2023年1月放映開始の大河ドラマ「どうする家康」を契機に、全国的に家康公への注目度が高まっている。家康のゆかりの地は全国に数多くあるが、岡崎市のオンリーワンの価値である「家康公生誕の地」を活かきれていないと感じていたところ。これをチャンスととらえ、岡崎市独自のブランド力を向上させるとともに、ドラマ終了後も色あせない、家康公に恥じない歴史まちづくりを進めていく。

掛川市

土地区画整理事業を契機に、掛川城天守の復元を実施。また、これに合わせ「城下町風まちづくり」を実施。地区内の地方銀行・住居・飲食店といった建物が城・石垣風のデザインとされている。改修費用に対して市が助成を行っているものの、民間事業者・住民にも市の取組が受け入れられていると実感。

この「城下町風」のイメージに沿うイベントも各種開催されている。市は掛川城・二の丸茶室で開催される将棋の王将戦の対局の際に通りにキッチンカーの出店を企画するなど、ひとがまちに集うきっかけづくりに励んでいるほか、市民主体でも軽トラ市、城下町駅伝などが開催されている。ソフト・ハードの両方の取組により城下町全体のまちづくりに一体感が生まれており、これがシビックプライドの醸成にもつながっていると感じる。

掛川城のほか、市内には高天神城跡、横須賀城の三つの城がある。これら3つの城でのストーリーを「掛川三城ものがたり」として紹介・PRしている。今後も歴史文化資産の周遊を促す観光誘客を進めていきたい。

伊豆の国市

伊豆の国市は 60 超の国・県・市指定文化財、3 件の国登録有形文化財を有する文化財資源にあふれたまち。世界遺産登録を受けた韮山反射炉では、東京オリンピック2020の聖火リレーのスタート地点としてミニセレブレーションを開催、春には桜の夜間ライトアップを実施しており、歴史資源とその魅力のPRに努めている。

また、伊豆の国市は、現在放映中の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の主人公である北条義時の生誕の地でもある。この機会を活用し、大河ドラマ館の設置、大河ドラマと伝統行事のタイアップ企画などにより、市内の交流人口の増加に努めている。

ドラマの効果で市が注目を浴びているなか、これを一過性のブームで終わらせることのないよう、地域の外部の方々にはいかに興味を持ち続けてもらうか、アフター大河ドラマにいかにつなげていくかが重要と考えている。その取り組みとして、ドラマ終了後には地域拠点として活用できるような博物館を構想しているほか、地元の名産品を使用した商品を開発している。

ドラマ放映をきっかけに歴史観光を活かした取組や更なるブランド化を推進し、観光客のみならず、市民が郷土の歴史や人物に目を向けて住んでいる地域に誇りを持てるよう、今後のまちづくり戦略に繋げていきたい。

浜松市

市におけるシティプロモーションの定義として、「地域の魅力をつくる、国内外に発信する、ブランド力を高め活力のある都市をつくる、市民に誇りを育てる」ものとしている。

おんな城主直虎や韋駄天など、浜松にゆかりのある人物がテーマとなった大河ドラマを呼び水として、浜松の歴史・文化を全国に発信している。2023 年にも「どうする家康」の放映を控えており、近隣の家康にゆかりのある市町とも連携しながら都市のブランド力を向上させていきたい。ただ、大河ドラマは来訪のきっかけに過ぎない。来訪者に地域の魅力をいかに知ってもらうか、いかにリピーターを増やすかが大きな課題である。

また、フィルムコミッション事業の推進にも力を入れている。市役所内に推進室を設置し、「国土縮図型都市・浜松」の強みを活かし、映画やドラマ撮影等を通じて本市の魅力を広く発信。ロケの実績は年間約 90 件にのぼる。先進的なロケ支援を行った団体を表彰する「JFC(ジャパン・フィルム・コミッション)アワード」にて、昨年度は最優秀賞、今年度は優秀賞を受賞。

撮影のための警察協議、制作スタッフの宿泊先・食事・機材確保、エキストラの確保、撮影時のトラブル発生時の対処も含め、市の職員が可能な限り対応。こうした包括的なサポート体制により、業界の方々との間で信頼関係が構築され、口コミで浜松市を広めていただいていると実感している。

市内のさまざまなコンテンツを活かし、浜松を訪れていただくきっかけづくりに努めていく。